

● 主な活動の記録 (4月～6月)

4月11日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

朝からスカット晴れ上がった絶好の活動日和、新入会一名を含む40名弱が参加。植栽地“大伸社の森”のササ刈り、炭焼き用薪づくり、遊歩道橋の補修、間伐材の皮むきと手分けしての作業。昼は恒例の”サクラの森”で満開のサクラを愛でながら、時折風に吹かれ舞い落ちるサクラ吹雪を浴びてゆっくりと昼食。

午後午前にも引続いての作業。一部希望者は自然観察を兼ねての山菜採りを行った。この日、朝一番より炭窯の火入れを行い、一昼夜をかけ焚いたあとは、約一週間日中温度管理のため当番が交替で詰めることとなる。

炭窯火入れ



花 見



満開の八重桜



皮むき作業



「緑の募金」 街頭活動

みどりの月間あたり、(財) 奈良県緑化推進協会の要請を受け、4月21日(火) 近鉄奈良駅前と、29日(水) 橿原アルイオンモール前で、2日間で延べ26人の会員が街頭募金活動に参加。

*近鉄奈良駅前

あやしい雲行きの中、途中雨がぱらついたこともあり例年に比し人通りが少なかったが、花の種・風船を手渡ししながら協力を呼びかけた。その後ミス奈良3名、極楽坊保育園児が、また”せんとくん”も応援に駆け付けてくれ徐々に盛り上がり、丁度雨が上がった11時頃には、奈良市長次いで県知事のご参加を頂き全ての役者が揃い、呼び掛けはピークに達した。

ひっきりなしに記念写真のお呼びが掛る“せんとくん”の人気もさることながら、一生懸命に大きな声を出し、又そのかわいい仕草と相俟っての園児のパワーは流石にて、中年の女性は皆に入れてあげたいと近くの店でわざわざ両替をされ11名一人一人の箱に入れて頂いた。改装中の駅の工事の手を止めての職人さんやガードマン等今年も多くの方々のご協力を頂きました。

*イオンモール前

同日開催された第5回イオンふるさとの森づくり育樹祭に合わせ、姫サザンカの苗木と花の種を配布しながらの募金活動。同祭に集った約千名が周辺の植栽木の近くの草を一本一本丁寧に取り終えられた後、一斉に戻ってこられ、呼び掛け・配布は大忙し。準備された苗木500本はすんなりと捌けてしまった。若い人々・こどもさんのご協力が目立った。

奈良駅前：

揃い踏み



一人一人の箱へ



ハイポーズ



仕事の手を止めて



イオンモール前：

苗木の袋詰



育樹作業



苗木の配布



協力有難う



4月22日（水） 懇親会

（財）奈良県緑化推進協会新旧事務局長・理事の歓送迎会を兼ねて、J R奈良駅前の居酒屋で開催。久しぶりの夜の会合とあって30数名と多数が参加。代表による同協会の日頃のご指導・協力に感謝の旨の挨拶の後、局長・理事の挨拶に続いて乾杯。美味しい食事と酒に話しが弾み予定の2時間はアツト言う間に過ぎお開きとなった。その後一部は二次会へと流れて行った。

5月9日（土） 定例活動 矢田山遊びの森

今年で設立以来13年目に入っている当クラブの活動は、回を重ねて先月の定例で300回を超えたことを記念し、設立され長年の活動を支えてこられた諸先輩の努力を謝すとともに、あらためて皆で原点に帰り、安全で楽しい森づくりを目指しての活動の継続を祈念して種々の作業に入った。特定事業の一環としての林内整備・除伐、伐採木を炭材・薪に利用すべく玉切り・枝さばき、竹炭づくり、間伐材利用のプランターづくり、自然観察を兼ねての公園周辺の清掃と活動は多岐に亘った。お昼には旬の竹の子の入ったご飯とお汁に舌鼓を打った後、バームクーヘンの試作を行い、出来たてをおやつにいただいた。

竹炭づくり



プランター組立て



竹の子料理の出来上り



バームクーヘンづくり



5月16日（土） 高取山共生の森整備・保全事業 「緑の募金」 中央事業

新日本石油（株）の社員とその家族の高取山国有林内「ENEOSの森」づくり活動での指導。今回は4名の新入社員教育も兼ね20名弱が参加。この活動も回を重ねているので過去5回以上の参加者に新入社員の一泊指導員になってもらい予定の作業に入った。午前中は植栽地において、手ガマでの

下草刈り・ツル切り、そして補植としてイハモジ・刈の木合わせ 10 本の植樹を行い樹名板を付け、新入社員の手で今後の活動への参加の決意を込めて各自が署名した標柱を打ち込んだ。午後は山頂付近での林内整備作業(除伐・枝払い・もやかき等)を手ノコ・カマで行った。この間、希望者が下草刈り器・チェーンソーの扱いを体験した。朝から心配されていた空模様であったが、あたかも作業の終了を待っていてくれたように、道具を片付ける頃にポツリポツリと降り出した。

下草刈り



補植



林内整備



下草刈り器体験



5月24日(日) 里山林機能回復整備事業 —森林環境税対象—

二上山々麓登山道入口から山頂に向けての一带の里山約 1ha を、昨年から 3 年をかけて整備しているもの。放置された広葉樹二次林を整備し、里山林本来の機能回復を図り、安全で快適な自然景観を創出すると共に、里山林の生物多様性の確保を目指している。枯損木の処理、もやかき、枝払い、ツル切り、ササ刈り等を行い、木洩れ日が入る程度に林内整備を行った。

日曜日のため、ハイカーの往来が結構多く注意をしながらの作業だったが、思いのほか捗り、整備の終わったところでは明るさが戻り、陽も入るようになってきた。沿道の大きな枯れた松の伐倒も行った。

5月29日(金) 森林環境教育 片桐小学校

同校が本年度の森林環境教育推進校に指定され、その実践の一環として、5年生 81 名が矢田山遊びの森で里山観察を実施。当クラブ員 9 名がその指導にあたった。3 班に分かれ、芝生広場周辺で予め設定された別々のコースにて樹木観察。各コースでは、異なる 5 種の樹木 3 本づつが選定されており、それらの特徴・由来等の説明を指導員から聞きながら、予め用意した観察メモに、それぞれの大きさ、葉の形状、実・種子、花につき記入していった。

その後 3 人づつでグループを組み、「私の木」を選ぶ話し合い入り、同じ樹種を 3 グループ以上が選んだ場合はジャンケンで決め、負けたグループは第二・三の候補を選定していった。各グループそれぞれが決まり、樹名・グループ員名・日付を樹名板に記入、木に括り付け終了。季節による変化を観るため、秋に再度観察会が予定されている。当日配布された県林政課発行の立派な副読本「森林とわたしたちの生活」や、持参した植物図鑑を参照しながら熱心に観察している児童も見受けられた。

葉の形は？



シッカリとメモに



樹名板書き



又会いに来ます



6月6日～7日 森林ボランティアリーダー養成と山村交流 「緑と水の森林基金」 公募事業

奈良県森林ボランティア連絡協議会の主催で、日本のふるさと明日香村において、その原風景を楽しみながら、歴史とロマン・自然を学びこれらを引継いできた飛鳥人との交流を図る目的で 2 日間に亘り開催。当クラブ員十数名はじめ 4 団体 20 数名に加え、一般参加の女子大生一名が参加。一日目は明日香村森林組合の協力・指導のもと、30 数年生の十数メートルのヒキ中心の民有林において本格的な間伐研修。登るのも一苦勞の急峻な山の尾根近くでチェーン・ソールを使っての間伐。材は木工用に利用されるため、枝払い・皮むきをして葉枯らし。チェーンが初めての人も組合員の適切な指導で無事に倒れた後、サト吹き込む心地よい飛鳥風に緊張を和らげた。場所を宿泊所である祝戸荘移し、長尾講師の「明日香村の林業について」、荒川講師「万葉のふる里・飛鳥」と題しての講義と質疑・応答。荒川講師は明日香が詠み込まれた万葉和歌を犬養節の名調子での吟詠を挟み講演。夕食後の散策では近くの川辺で優雅に飛び交うオトと山にかかる満月に癒された一時だった。その後の懇親会では遅くまで意見交換が続き、皆は一様に今回の研修の成果に大いに満足。二日目は木工体験・村内視察・橿原昆虫館での「虫まつり」支援と三手に分かれての活動。木工はおわん・椅子等の作成。視察は荒川講師の案内で、南淵山の中腹で明日香を一望してから、万葉歌碑巡り、午後からは木工班も合流し甘樫丘から藤原宮跡とその周辺を俯瞰。「虫まつり」では、ジージェミづくり、虫クラフトの指導にあたった。

作業前の点検



抜倒指導



皮むき作業



講演風景



6月25日(木) 森林環境教育 辰市小学校

同校5年生60名弱が参加し、奈良市野外活動センターで実施。当クラブ員11名が間伐とクラフトの指導にあたった。まず、本日の作業内容と意義を説明の後、児童達があらかじめ学習してきた副読本「森林とわたしたちの生活」の復習を兼ねて、森林の恵みと働きについての話しを聞いてから6班編成の半分が間伐体験と、残りはクラフトに分かれ一時間強づつ交替で行った。間伐は同センターに隣接の26年生ヒキ林で、伐倒・枝払い・皮むき・玉切りを順次体験。ノコギリを使うのが初めての児童は少なかったものの、14~15m近くの大きな木を相手の実践ではなかなか思うように挽き熟せず、苦勞の末ようやくうまく倒れると拍手と歓声があがった。きれいに皮むきが出来た部分を玉切りし皆で担ぎ出した。クラフトでは木で名札づくりをするため、間伐材を薄切りし、皮をむき、サトペーパーをかけて丁寧に磨き上げた。

頑張ってもう一挽



皮むき作業



ワッショイワッショイ



名札づくり

